

## 委員長コメント

### ◇観光・街づくり委員会

委員長 長岸 実 氏（㈱徳島新聞ネクスト 代表取締役社長）



18年度は意見交換会などで、委員の皆さまからたくさん意見を頂戴しました。他にも徳島市から講師を招いて、川の魅力の発信について話をさせていただきました。

来年度は観光まちづくりの視点で各地の先進事例について専門家を招き、講演会または研究会を開催いたします。また、徳島の観光スポットの現状を認識するため視察を行い、魅力と課題の両面について実態を把握したいと考えておりま

す。さらに、観光地や行事・イベントの情報発信・周知と告知方法についても視察と同様に、現状を認識したいと考えております。

活動計画として①大型リゾートホテルまたは外資系大手ホテルなどの誘致事例や地域の街づくりの好事例について知識を高めるために、専門家等の講演会を開催します。②徳島の魅力と課題を認識するための観光スポット視察を行いたいと思います。③観光に関する情報発信力を検証し、高度化・精緻化について勉強します。④徳島の目指すべき将来ビジョンや方向性について意見交換会を開催します。

18年度は、観光あるいはまちづくりについて様々な幅広い意見を頂戴しました。2年目も引き続き研究を重ね、より良い提言をしたいと考えております。よろしく願いいたします。

### 2019年度活動目標

#### ◇観光・街づくり委員会

観光・街づくりの各地の先進事例について、専門家等を招き、講演会または勉強会を開催し知識を高める。また、徳島の観光スポットの現状を認識するため視察を行い、魅力と課題の両面について実態把握を行う。さらに観光地や行事・イベントについての情報発信(周知・告知)方法に関しても、視察と同様にその実情を認識する。

## 委員長コメント

### ◇文化・スポーツ委員会

委員長 田中浩三 氏（田中法律事務所 代表弁護士）



三好長慶について研究し、地域活性化につなげていくというのが文化面での事業です。昨年度は、徳島出身の武将で織田信長に先んじて天下を取ったという風にもいわれる三好長慶の研究について、第一人者である大学の先生や三好長慶会の会長にご講演をいただきました。また、本拠地の勝瑞城跡視察にも行きました。

今後は、大河ドラマ誘致推進協議会ともタイアップを考えています。大河ドラマに取り上げられれば、数十億から百億規模の経済効果があるので実現したいと考えていますが、まずは「歴史ヒストリア」に取り上げていただきたいと思います。

つきましては勉強のため、三好家全体についての講演会を開催したいと思っています。

三好実休（三好長慶の実弟）の役割も念頭に、阿波三好家の研究が必要ではないかと考えています。また、茶の湯とも関係が深いので、そちらとの連携も深めたいと考えています。

三好長慶については関西でもかなり活動をしていますので、高槻市や大東市の訪問や団体との意見交換会、あるいは京都の聚光院の三好長慶の墓も訪問したいと考えています。さらにできれば、専門家や三好家にまつわる方を招き、シンポジウムを開催したいと考えています。目的はあくまで地域の活性化ですので、観光を含めた誘致策などを観光まちづくり委員会とも連携したいと考えています。

スポーツ面では、今年こそJ1昇格実現に向け、再び徳島ヴォルティス観戦ツアーを開催します。

多くの皆様にご参加いただけたらと考えています。よろしくお願いいたします。

### 2019 年度活動目標

#### ◇文化・スポーツ委員会

徳島ゆかりの戦国武将「三好長慶」の研究をもう一段深め、徳島県民に対して「三好長慶」の理解度・認知度向上に注力する。「三好長慶や阿波三好家」を、観光振興等地域の活性化に結びつけられないか検討する。

また、スポーツの分野では、引き続き地元の徳島ヴォルティスを支援する。

## 委員長コメント

### ◇人口減少対応委員会

委員長 高畑宏比 氏（株ときわ 代表取締役会長）



18年度は、視察を中心に活動しました。7月に行った明石市では、人口や税収が増えた背景について勉強してきました。また、徳島県神山町のサテライトオフィスの視察では、初期のサテライトオフィスとは違い、大きく進化、変化している印象を持ちました。

人口減少を分解しますと、3つに分かれます。1つは「地方創生」。国主導ではなく、我々が行動を起こさなければ地方創生は実現しないのではないかと感じています。地方間の競争のなかで徳島は「勝ち組」にならないと感じています。あとの2つは「高齢化」「少子化」。少子高齢化とひとくくりに言いますが、少子化と高齢化では要因も施策も全く違うので、それぞれの観点から勉強していきたいと考えています。どの指

標をみても、日本は人口が減るのは確実なわけですから、それをいかに明るく前向きに考えていくか、そのような提言ができればいいと考えています。

来期の活動計画としては、まず「働く」。これは「働き方改革」をテーマにして講演会や企業視察を考えています。それから「遊ぶ」も大事で、これは観光・街づくり委員会などと連携して、定住人口ではなく、交流人口についての意見交換をしたいと思います。

「学ぶ」は、若者の県外流出対策として、18歳までに徳島を好きになるような「地域人教育」の必要性から、先進的な自治体の視察を考えています。「暮らす」では、高齢化のいま、いかに「予防と管理」をするのかを観点において活動予定です。「育てる」については活動のメインに考えていますが、いわゆる「小1の壁」や学童保育について、女性活躍推進委員会と連携したいと考えています。学童保育は、アクティブシニア層の活用やスポーツ教育、また新しいコミュニティ形成にも通じています。

魅力的な街になれば人口減少も緩やかになり、より活性化された街になるという考えで提言を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

### 2019年度活動目標

#### ◇人口減少対応委員会

人口減少という課題を、「地方創生」、「高齢化」、「少子化」という3つの観点から考察、研究していく。人口減少の現状を十分認識し、その歯止め策またはスピードを緩やかにしていく対応策を検討する。具体的には「働く」「遊ぶ」「学ぶ」「暮らす」「育てる」の5つの視点を中心に研究し、提言につなげる。

## 委員長コメント

### ◇女性活躍推進委員会

委員長 坂田千代子 氏 (㈱あわわ 会長)



本委員会では18年度、本会員の多くの経営者の皆さま、それからその女性従業員の皆さまにアンケートに答えていただきました。このアンケート結果を入念に分析し、今年はさまざまな取り組み、もちろん具体的には提言に向けて活動を進めていきたいと思っています。また、県内の他団体、四国4県の経済同友会との連携もしていきたいと思っています。

活動計画は、「1. アンケート結果の分析・報告・活用策について協議し、最大限の活用を図る」ということで、このアンケート

結果を活用していきたいと思っています。早速、先日の委員会のなかで、この4月から働き方改革が順に施行されていく今、提言をするということも大事なのではないかとということになり、3月初旬にも知事に向けて、アンケート結果の提供と今できることの提言をしたいと考えています。

「2. 目標を同じくする他の四国地区同友会や経済団体、自治体との意見交換、情報交換会を開催」については、様々な県内の団体、女性委員会などにアンケートの分析結果を提供し、役立ててもらうために会合や意見交換会を実施し、広がりをもせたいと考えています。

「3. 人口減少対応委員会と連携し、育児や保育、介護等に関する知識を深めるため講演会や先進事例の視察を実施」ということで、非常に密接したテーマをもつ委員会同士なので、一緒に活動出来ればと考えています。

### 2019年度活動目標

#### ◇女性活躍推進委員会

多くの会員に協力いただいたアンケート調査結果について、その集計データの分析・報告・活用について十分な協議を実施する。経済同友会内の他の委員会や、同様の調査・研究をしている他団体、自治体等との連携を強化し、女性が活躍できる社会につなげていく。

## 委員長コメント

### ◇先端技術活用委員会

委員長 近藤紳一郎 氏 (株)スタン 代表取締役)



今年度は啓蒙活動ということで、人工知能AIのセミナーを2回とロボットRPAについては1回、さらに産学ということで野地学長に講演をお願いしました。

次年度の予定は、4つ挙げていますが、委員のメンバーのご意見をいろいろと聞きたいということで、委員による意見交換会をやらうと考えています。それから、普及ということでは、先端技術そのものが企業の競争力そのものになりつつあるということで、皆さんの企業の中でも、企業のデジタルトランスフォーメーションが喫緊の課題だと思しますので、経済産業省を訪問して、国の施策について話を聞く機会を設け

たいと思っています。

それから今、どんどん新技術が生み出され、急速に普及しているので、例えばAIやブロックチェーン、決済手段としてQRコードなど、そういうタイムリーなテーマを取り上げて勉強会やセミナーを開きたいと考えています。先端技術の発展に伴い、セキュリティリスクが非常に大きな問題となってきます。企業内においても、データのハッキングや技術データの漏えい、またファウウェイのケースのように国家間の問題にまで発展することもあり、そのようなリスクについて、皆様方と勉強したいと考えています。

2025年の万博に向けて本委員会も徳島県が出展するのであれば一緒に参加したいと考えています。そして、新しい技術を導入するためには、どのような組織やどのような仕組みがいいのかということをお県などに提言できるような活動をしたいと思っています。

### 2019年度活動目標

#### ◇先端技術活用委員会

専門家による講演会を開催し、先端技術に関する理解は深まった。委員による意見交換や協議の機会をもち、提言に向けての議論を深める。また産官学の連携を強化し対応していく必要のある分野であり、地元の自治体、国、徳島大学等の施策を研究するなどし連携を強化する。

## 委員長コメント

### ◇四国等連携推進委員会

委員長 梅田真司 氏（四国電力㈱ 執行役員徳島支店長）

※欠席のため、島事務局長代読



2018年度の振り返りですが、まず四国4県の同友会との情報交換会と勉強会を実施しました。昨年の6月の情報交換では、各経済同友会が連携して取り組む課題について議論をしました。その際、四国が一体となって取り組むべき課題として、「観光」・「防災」をキーワードに連携していこうという話になりました。

四国新幹線の推進では、関西経済同友会と四国4県の同友会とのインフラに関するミーティングに出席し、意見交換を実施しました。11月には四国大学の構内で新幹線に関する講演会を開催し、本会会員のみならず四国大学の学生にも多数出席いただき

情宣につながりました。

観光分野では、協議の結果、四国大学と連携して観光アイデアコンテストを企画しました。四国を一体と捉えたコンテストにして、その結果を踏まえて、他の4県の同友会とさらに議論を深め、最終的に提言につなげたいと思います。

19年度の方針と計画ですが、まずは四国新幹線、八十八箇所の世界遺産登録については従来同様、他団体と連携して情宣、普及活動に努め、実現に向けた動きを強めることを継続したいです。また、18年度は四国大学で四国新幹線の講演会を開催しましたが19年度は他大学での開催を、若い世代につなぐ意味も含めて検討しています。

観光分野は、観光アイデアコンテストの結果を踏まえて、四国が一体となった施策の実現、提言に向けて動きたいと考えています。防災分野では、4県の同友会と連携して、南海・東南海の地震に向けた防災協定や防災に関する覚書が締結できるような協議を進めたいと考えています。

### 2019年度活動目標

#### ◇四国等連携推進委員会

従来から他の四国地区の経済同友会、関西経済同友会等と連携して取り組んでいる「四国新幹線の実現」「四国八十八箇所霊場と遍路道の世界遺産登録」に関しては、機運の高まりを追い風に四国が連携し活動していく。その他の活動としては「観光」、「防災」分野について四国地区の経済同友会との連携を深め、提言等につなげる。